

## 式辞

春の花が季節に先駆けて目を楽しませてくれた今年の暖かな冬は、はやその終わりを告げたようです。

新型コロナウイルスの世界的な流行を受け、感染拡大防止の趣旨のもと、卒業証書授与式をこのような形で実施しなければならないことは残念ではありますが、それでも3年間苦楽を共にした級友と卒業を祝えることは喜ぶべきでしょう。

356名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございませう。心からお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんとは、この1年間のお付き合いでしたが、教室を訪れるたびに歓迎してくれたことを嬉しく思っておりました。ありがとうございました。心根の優しい、紳士的な皆さんは、大人と呼ぶのにふさわしい高校3年生でした。生徒会活動や行事において後輩の模範となる団結力や統率力を発揮し、各々の責任を全うする姿は見事でした。高校生活の中で、社会に巣立つ力を十分に培ってくれたと思います。

さて、この1年を通し、皆さんには様々な話をし、社会に目を向ける高校生になるよう促してきました。

本校の教育目標である「自立した生徒の育成」は一朝一夕になしうるものではありません。

中学生までは大人が手取り足取り皆さんを指導してきたと思います。それを礎に、自ら考え自分の役割を果たす高校生になる努力を重ねてきました。その中で自分の責任とは何か、考える時間はありましたか。日常的には部活動や委員会活動、日直や清掃分担など、責任を感じる場面があったと思いますが、これを果たすだけでは一人前とはいえませう。千葉西高校の生徒としての責任の上には、市民としての責任、県民としての責任、国民としての責任があります。自分の責任を果たすことは簡単ではありませんが、その上で他人の生活を慮ることができる人もたくさんいます。

昨年9月の台風や10月の豪雨災害においても、顔も知らない人たちの生活に思いを馳せ、災害ボランティアに参加する人たちが大勢いました。こうした方々が被災地をどれだけ勇気づけたかわかりませう。また、昨年12月、アフガニスタン復興に人生をかけた、医師、中村哲さんがかの地で銃撃により亡くなりました。その死を悼む声が世界中から集まっていたこと覚えているでしょう。医療活動をするためにアフガニスタンに渡ったのち、生活インフラの充実が優先されねば医療も無意味と悟り、すぐに井戸を掘る、用水路をつくるという作業にかかったことが伝えられました。

この優れた行動力と、リーダーとしての抜きんできた指導力は現地でも高い信頼を得ていたそうです。高潔な人生を全うされたことに誰もが敬意を抱きました。

今の自分に力をつけることは何より大切です。そのことに邁進したなら、次は周囲の人たちのことを考えられると思います。その範囲がどんどん広がり、世界中の人たちのことを考えられるようになれば、自己の相対化は完成し、明らかに自立した人間になったといえるでしょう。もちろん、自分が生活する地域の、身の回りの人たちのために力を尽くす人も自立した人です。そして、そういう人は常に向上し、さらに社会貢献を果たしているのです。模範となる人は身近にもたくさんいます。これからは、そういう人たちの姿に気づくことが大切です。

結びに、今日家に帰ったら、これまで皆さんを慈しんでくださった保護者の皆様に、感謝の言葉を伝えてください。皆さんが立派に成長されたその陰で、どれだけ心を砕かれたか。その気持ちに報いる言葉をお願いします。

卒業生の皆さん、この千葉西で学んだ3年間の自信と誇りを胸に、遥か大空に飛び立ってください。皆さんの前途が明るく輝かしいものになることを祈念し式辞といたします。

令和2年3月7日

千葉県立千葉西高等学校長

佐藤 雅之

